



バッハの森通信

第114号
2012年
1月20日発行

財団法人筑波バッハの森文化財団

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

<http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 (財)筑波バッハの森文化財団

心の故郷

日々皆で創るふるさと

という「告白」がありました。同じ言葉が、しばらくお目にかかっていない会員からいただいた年賀のメールにもあったので、大変嬉しくなりました。

* * *

皆さんは、年末年始に帰郷して、ご両親、ご兄弟、ご親族、お友だちとお正月をなさいましたか。残念ながら私にはそういう故郷がありません。両親がそれぞれの故郷から東京に出て来たのが大正時代、その20数年後に東京で生まれ育ち、少年時代に両親を亡くした私と両親の故郷の親族との交流は、代替わりをすると、いつしか途絶えてしまいました。

こんな私にも「故郷」はあります。30代から40代にかけてエルサレムに留学していたとき、初めて自分は日本人だという事実を意識しました。外国で暮らしていると、よく「お前はなにじんか」という質問を受けるからです。学位論文提出後、14年ぶりに帰国する道を私に選ばせたものは、自分は日本人だという自意識でした。

* * *

このように「故郷」とは、切っても切れない血縁関係から成り立つ、自分という存在（アイデンティティー）の土台です。しかし、現代社会では、故郷を離れて生活している人たちが大勢いますし、故郷に住み続けていても、大多数の人たちは、血縁とは別の組織に属しています。会社、学校、学会、同好会、宗教団体、政党など、何らかの共通の目的の下に集まった人たちの組織です。

バッハの森も、血縁とは無関係の組織ですが、経済的利益を追求する会社でも、資格獲得を目指す学校でも、研究情報を交換する学会でも、趣味を楽しむ同好会でも、信仰を布教する宗教団体でも、政策の実現を目的とする政党でもありません。では何なのでしょう。

実は、先月（12月）、毎週バッハの森に集まる皆さんから誕生日カードをいただきましたが、その寄せ書きの中に「バッハの森は私の心のふるさとです」

以前、「今、我ら聖霊に願いまつる」というコーラルを学んだときに、「本当の祖国に」（zum rechten Vaterland）「帰郷する」（heimfahren）という表現と出会いました。この中世のラテン語聖歌を元歌にするコーラルは、「本当の祖国」と言う言葉で「あの世」を指していますが、現代風に解釈するなら、血縁とは別の「心の祖国」と理解できます。そのとき、「バッハの森は心のふるさとなんだ」という思いが閃いたことを覚えています。

この場合「心」とは、血縁のように目に見えるものではないけれど、間違いなく自分の日々の生き方を定める重要な要素であり、「ふるさと」とは、そこに自分が属し、何らかの絆で結ばれていることを喜びと感じるコミュニティのことです。

27年前の創立以来、バッハの森は、「教会音楽を共に学ぶ」という目的に賛同する人なら誰でも、各自が各自の「心」、言い換えれば「自由意志」に基づいて参加できる学び舎を創り出すことを目指して活動してきました。しかし「自由意志」による参加だけがルールという組織を維持することは、決して易しくありません。多くの人たちが参加し、多くの人たちが去っていきました。それにもかかわらず、バッハの森を「心のふるさと」にする人たちが、不思議なことに今も大勢います。その証拠に、前号の「バッハの森通信」で報告したとおり、昨年3月11日の大地震で大破したアーレント・オルガンの修復募金に、本当に大勢の方々が参加してくださいました。彼らは、バッハの森を「心のふるさと」にしている方々だと思います。

「心のふるさと」のもう一つの特徴は、血縁に基づく故郷とは違って、日々皆で創り出さなければ、無くなってしまう故郷だということです。この創造的な「心のふるさと創り」に、あなたも参加なさいませんか。日々生きる喜びを味わえる、楽しい活動ですよ。（石田友雄）

天の王国

天にあるように地にも

*このメディタツィオは、「クリスマス・コンサート」(2011年12月11日)で朗読されました。

天使のお告げ

ルカによる福音書が伝える、イエス・キリストの誕生物語によると、先ず、処女マリアに現れた天使ガブリエルが、「貴女はいと高き方の力に包まれて神の子を生む」と予告します。「受胎告知」と呼ばれるシーンです。その後、マリアが受けた予告が実現してイエス・キリストが誕生した夜、ベツレヘム郊外の野原で、夜通し羊の群の番をしている羊飼いたちに天使が現れて告げます。「恐れるな。私は大きな喜びを伝えるために来た。今日、ダビデの町ベツレヘムで、救い主がお生まれになった」。すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を讃美して歌いました。

いと高き所にいますみ神に栄光あれ。

地には平和、み心に適う人々にあれ。

このエピソードは、誕生物語のクライマックスです。いかにもパストラレが相応しい、一見、メルヘンの世界ですが、決しておとぎ話ではありません。「受胎告知」と共に、このクライマックスには、イエス・キリストの誕生物語を語り伝えた人々の深い思いが籠められているのです。

「受胎告知」と「羊飼いへのお告げ」という、誕生物語の最も大切なシーンは、天使のお告げとそれを受けたマリアと羊飼いたちの物語です。天使とは、天の使者、すなわち、神の使者のことで、より厳密には、天の王である神の意志を地上の人間に知らせる役目を担った、神の王国のメッセンジャーです。ですから、両方のシーンに共通していることは、天にいます神の計画を知らされた人間が、それを地上で実現したというテーマです。

なおマタイは「天の王国」、マルコとルカは「神の王国」と呼びますが、この場合、天と神は全く同義語です。更に付け加えれば、多くの日本語訳聖書で用いられている「神の国」、「天の国」、短縮して「天国」という言葉は、明かに誤訳です。英語では“The Kingdom of Heaven”，或いは

“The Kingdom of God”と言います。勿論、“Kingdom”は「王国」と訳さなければいけません。王国とは、ただ独りの王が絶対的支配権を持ち、その権力を王が自分の息子に継がせる国のことで、民主的共和国とは全く違う政治組織です。聖書時代の人々は、この意味で、神を天の王国の王と呼んだのです。

イエスのテーマ「天の王国」

さて、このような「天の王国」乃至は「神の王国」は、ナザレのイエスの中心的テーマでした。イエスは、「悔い改めよ、天の王国は近づいた」と言って宣教活動を始めました。そして多くの教えを、「天の王国は次のようにたとえられる」と語り出す「たとえ話」で語りました。彼が教えた祈り、「主の祈り」でも、「天にいます私たちの父よ」と神に呼びかけておいて、「あなたの王国が来ますように」と祈ります。

これら、イエスの教えから分かることは、「天の王国」は、地上の人間が祈り求めるべきものですが、「来てください」とお願いするからには、迎える準備をしなければなりません。この事情を、「悔い改めよ、天の王国は近づいた」と言うイエスの言葉がよく示しています。しかし、待つだけではなく、「天の王国のたとえ話」では、しばしばそこに人が招待されています。この場合も、天の王国の客に相応しい準備が要求されます。そして、究極の願いが、「主の祈り」で、「あなたの王国が来ますように」と祈った後に続けて、「あなたの意志、即ち、あなたのお考え、或いは、あなたのご計画が、行われますように、即ち、実現しますように、天におけるように地上でも」と言う祈りに籠められています。「天の王国」が、天にあるように、そのまま地上でも実現してほしいという願いです。

天の王国の倫理

ナザレのイエスの全ての活動は、この願いを巡って実行されました。天の王国が、と言うことは、天の王の絶対的支配が、地上でも実現すること、それが彼の唯一の願いでした。しかし、彼は政治活動はしませんでした。まして、武力による革命を起こそうとは、全く考えていませんでした。その代わりに、民衆に「天の王国の倫理」を説きました。例えば、「お前の敵を愛せ」、「天に貯金せよ」、「何を食べようか、飲もうか、着ようかと思ひ悩むな。先ず神の王国と神の義を求めよ」、「自分自身のように隣り人を愛せ」、「天の父が憐れみ

深いように、お前たちも憐れみ深い者になれ」というような教えです。

しかも、ナザレのイエスは、民衆に説いた「天の王国の倫理」を本当に実行しました。特に病人や差別されている人々、悲しんでいる人を見かけると、放っておくことができない人で、周囲の状況に構わず助けてしまうため、大勢の民衆が彼の後をついて来るようになりました。その上、彼は支配階級の搾取と偽善を鋭く批判したため、権力者たちから憎まれ、世の秩序を乱す危険分子として、結局、十字架にかけられ、処刑されたのです。当然、天の王国を地上に実現したいという彼の願いは実現せず、失敗に終わりました。

ところが、彼の死後、どうしても彼を忘れることができない少数の人々がいました。彼らが、彼の誕生物語を語り伝え始めたのです。それによると、彼は、天の王の支配を地上で実現するために、処女マリアから人として生まれました。そして、生まれたとき、天使の大軍は、「天の王に栄光があるように。地には平和が、み心に適う人々にあるように」と歌いました。これは、神の意志が、天におけるように、地上でも実現するように、という願いのヴァリエーションです。「平和」とは、天の王国の秩序です。ですから、「地上に平和が実現する」ということは、天の王国の支配者の栄光が、即ち支配が、地上でも崇められ、受け入れられることに他なりません。天における神の栄光と、地上の平和を歌った天の大軍の歌は、天の王の支配が地上に実現することを願って生き抜き、遂にはそのため処刑された人の誕生した日に、最も相応しい歌だったのです。

自滅へ向かう道から引き返せるか

彼を忘れることができなかった一握りの人々が始めた、彼の誕生日を記念するクリスマスが、これほど広く全世界で祝われるようになったのは、本当に不思議な現象です。ナザレのイエスを忘れることができない人々が、本当にこれほど大勢いるのでしょうか。彼が教えた「天の王国の倫理」を、本当に実行しようと思った人が何人いるのでしょうか。彼が失敗して死んでから2000年間に、彼のように本気で天の王国を地上に実現しようと試みた人はいたのでしょうか。いずれにしても、いまだに地上には「神の王国」も「平和」も実現していません。

この2000年間、人間の歴史は、経済成長と勢力拡大を二大原則として刻まれてきました。イエス

が説いた「天の王国の倫理」を真っ向から否定する、強い者勝ちの世界です。それにもかかわらず、クリスマスは語り伝えられ、歌い継がれてきました。この矛盾する現象は、私たち人間が、経済成長と勢力拡大という地上の法則だけを追求して生きることに、一抹の不安を覚える存在でもあることを示しているのではないのでしょうか。それに今年は、これまで人類が経験したことのない深刻な原発事故によって、地上の法則の追求が自滅へ向かう道であることを知らされた年になりました。どうしたら、人類は自滅へ向かう道から引き返せるのでしょうか。このような時に、天使の大軍と声を合わせて、「天に栄光、地に平和」とご一緒に歌ってみませんか。彼が命をかけて示そうとした「天の王国」が地上で実現する道が見えるかもしれません。

LETTERS／レターズ／手紙

オルガンの蘇生／修復、おめでとう

2011年10月23日

今日いただいた『バッハの森通信』で、オルガンの蘇生を知りました。よかったです。しかも、報告を読むと、ドイツ、アメリカ、そしてバッハの森の人たちの温かい協力で完成したとのこと、とても嬉しいです。

石田さんのお人柄がみんなに反映してこういう和ができ、オルガンの蘇生を可能にしたのだと思います。本当に嬉しいです。

ボクにも嬉しいことがありました。マールブルクで文化交流に対して賞をもらったのです。相変わらず、昔ばなし大学をやっています。元気です。

お元気で。(小澤俊夫)

* * *

2011年10月23日

『バッハの森通信』でアーレント・オルガンが修復されたことを知り、心から嬉しくお祝いを申し上げます。私たちに与えられた試練が、こうして皆様のご尽力でひとつひとつ乗り越えられています。

私の信仰の導き手であり、バッハについての導き手であった杉山好先生が天に帰えられ、そのお別れの会が今週土曜日に恵泉女学院大学であります。私の中では、何か二つの出来事がつながっているように感じられてなりません。いつかと願いつつ、なかなかバッハの森にうかがえませんが、遠からず実現することを改めて祈りつつ。(浪川幸雄)

- 10.13,20 来訪 坂入雅幸氏 (小林公認会計事務所)
 10.13,20,27 運営委員会 各参加者4名。
 11. 4 来訪 深谷壮一氏、内田明秀氏 (エステイコ
 ンサルティング)。
 11.10,17,24 運営委員会 参加者4名、3名、4名。
 11.17 来訪 神谷隆行氏、田邊均氏 (TOMAコン
 サルトンツ)。
 12. 1,8,15 運営委員会 各参加者4名。
 12. 8 クリスマス飾り付け 参加者6名。
 12.11 クリスマス・コンサート 参加者49名。
 クリスマス祝会 参加者17名+4名(子ども)。
 12.16 イタリア・オルガン搬入
 12.17 大掃除 参加者10名。
 12.26~28 イタリア・オルガン設置作業
 12.26~2012. 1. 9 冬期休館

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ (JSB)

- 10.15 三位一体後第12主日のためのカンタータ
 「誉め称えよ、主を、栄光の力強い王を」
 (BWV 137); コラール「誉め称えよ、力強
 き主を」。オルガン: J. S. バッハ「誉め称え
 よ、主を、私の内なるものよ」(BWV
 137/5)、當眞容子。参加者13名。
 10.22 第329回、オルガン: J. G. ヴァルター「誉
 め称えよ、主を、栄光の力強い王を」、安西
 文子。参加者13名。
 10.29 三位一体後第20主日のためのカンタータ
 「装え、おお、愛する魂よ」(BWV 180); コ
 ラール「装え、わが魂」。オルガン: J. S. バ
 ッハ「イエスよ、真の命のパンよ」(BWV
 180/7)、海東俊恵。参加者12名。
 11. 5 第330回、オルガン: J. G. ヴァルター「装
 え、おお、愛する魂よ」、當眞容子。参加者
 10名。
 11.12 三位一体後第27主日のためのカンタータ
 「『目覚めよ』と声が私たちを呼ぶ」(BWV
 140); コラール「起きよ、と呼ばわる」。オ
 ルガン: J. S. バッハ「グローリアがあなた
 に歌われますように」(BWV 140/7)、安西
 文子。参加者12名。
 11.19 第331回、オルガン: J. G. ヴァルター「『目
 覚めよ』と声が私たちを呼ぶ」、安西文子。
 参加者13名。
 11.26 アドヴェント第1主日のためのカンタータ
 「さあ来てください、異邦人の救い主よ」
 (BWV 62); コラール「いざ、来たりませ」。
 オルガン: J. S. バッハ「父なる神に讃美が
 捧げられるように」(BWV 62/6)、加藤千
 加子。参加者11名。
 12. 3 第332回、オルガン: J. S. バッハ「さあ来て
 ください、異邦人の救い主よ」(BWV 599)
 金谷尚美。参加者12名。

学習コース

- コラール研究会 10.14/6名、10.28/7名、11.
 11/6名、11.25/8名。
 クラヴィア研究会 10.14/6名、10.28/6名、11.
 11/5名、11.25/6名。
 オルガン音楽研究会 10.14/7名、10.28/6名、
 11.11/5名、11.25/8名。
 入門講座: 聖書を読む 10.15/5名、10.22/7名、
 10.29/4名、11.5/5名、11.12/7名、11.
 19/6名、11.26/6名、12.3/4名。
 バッハの森・クワイア (混声合唱) 10.15/12名、
 10.22/9名、10.29/13名、11.5/10名、11.
 12/12名、11.19/12名、11.26/12名、12.
 3/13名、12.10 (ゲネプロ) /16名。
 バッハの森・ハンドベルクワイア 10.15/7名、10.
 22/7名、10.29/7名、11.5/5名、11.12/6名、
 11.19/7名、11.26/7名、12.3/6名。
 オルガン&クラヴィコード練習 10.11/3名、10.
 12/1名、10.13/3名、10.14/1名、10.
 15/2名、10.18/2名、10.20/4名、10.
 21/3名、10.22/1名、10.25/1名、10.
 26/4名、10.27/4名、10.28/2名、10.
 29/2名、11.1/3名、11.2/2名、11.4/2名、
 11.5/1名、11.8/3名、11.9/2名、11.10/
 3名、11.11/2名、11.12/2名、11.15/1名、
 11.16/5名、11.17/2名、11.18/4名、11.
 19/1名、11.22/3名、11.24/5名、11.
 26/4名、11.29/2名、11.30/2名、12.1/1
 名、12.2/2名、12.3/1名、12.6/1名、12.
 7/2名、12.13/3名、12.14/1名、12.15/3
 名、12.16/1名、12.20/1名、12.21/3名、
 12.22/1名。

寄付者芳名 (敬称略日付順) (2011.10.1 - 12.11)
 下記の方々から計178,596円のご寄付をいた
 だきました。

建物維持積立寄付 (敬称略日付順)
 下記の方々から計93,000円のご寄付をいた
 だきました。

オルガン修復募金寄付 (敬称略日付順)
 (2011.10.1 - 12.6)
 下記の方々から計520,000円のご寄付をいた
 だきました。